

学生納付特例制度に対する東北公益文科大学生の認知度調査に関する研究

相蘇 望

所属する専門演習において、2017年の秋学期ガイダンスの際に1年生・2年生を対象にしたアンケート調査を実施したところ、学生納付特例制度を知らない学生が多いことがわかった。本学は学生納付特例制度を申請できる大学であるにもかかわらず、なぜ知らない学生が多数いるのかについて疑問を持った。その理由として、学内の掲示を見ている学生が少ないのではないか、学生納付特例制度を知る機会が少ないのではないかと推測した。この推測を検証するために、本研究では本学の学生を対象にアンケート調査を実施した。

本卒業論文では、実施したアンケートの結果を分析し、なぜ認知度が低いのかについて、その原因を考察していく。併せて、どうすれば学生納付特例制度を推進することができるのか、筆者の広報的な戦略を論述していく。

アンケート調査の結果、本学は学生納付特例制度を申請できる大学であるにもかかわらず、そして学内にポスター掲示があっても、学内の掲示を見ている学生が少なく、学生納付特例制度を知る機会が少ないため、制度を知らない学生が多数存在していることが判明した。このことから、高校や大学で知る機会や学ぶ機会を設けたり、高校では、高校生の意識を他人事から自分事に変えること、大学では、学年ごとに学生の年齢に合った内容の講習を行い、知識を深めることで、学生納付特例制度を推進できるのではないかと戦略を立てて、本卒業論文を通じて提言した。